

アロンの祝福を祈る

民数記 6：22-27

欧米では、くしゃみをする、「祝福がありますように！」と声をかけられます。モーセとその兄アロンが生きた時代、誰かに祝福の言葉を語るとは、無意味な社交辞令ではありませんでした。神は民数記 6：22-27 で、旧約時代の祭司たちに、神の民に主の祝福を与える方法を、特別に指示しています。これはすべて神が考案され、始められたことであり、神がいかに御自分の民を祝福することを好まれたかを示す事柄でした。

ついで主はモーセに告げて仰せられた。

「アロンとその子らに告げて言え。

あなたがたはイスラエル人をこのように祝福して言いなさい。

『主があなたを祝福し、

あなたを守られますように。

主が御顔をあなたに照らし、

あなたを恵まれますように。

主が御顔をあなたに向け、

あなたに平安を与えられますように。』

彼らがわたしの名でイスラエル人のために祈るなら、わたしは彼らを祝福しよう。」(民数記 6章 22-27 節)

神の祝福は一人の仲裁者(モーセ)と一人の祭司(アロン)を通して与えられました。このすばらしい祝福の言葉はまだ神の民に与えられます。しかし今日において、それらは、神にとって最大の仲裁者であるイエス・キリスト(第1テモテ 2：5)と祭司(ヘブル 4：14-16)を通して与えられるのです。ここに描かれているあらゆる恵み-祝福され神によって保たれる等-はイエスを通してそれを求めるすべての人に与えられます。

新約聖書は、人が、神と自分の間の仲裁者として、キリストの救いを信じ受け取るとき、その人は神の「王である祭司」(第1ペテロ 2：9)のひとりとなると教えています。そのような祭司の一人として、その人は、民数記 6：22-27 に書かれている言葉を用い、他の人々のために主の祝福を願い求める権威を持っているのです。これらは魔法のことばではありません。神の祝福は、単にこの言葉やその他いかなる祈りの文句を繰り返せば、結果としていただけるというものではありません(マタイ 6：7 参照)。それでも、この言葉をわたしたちに与えられたのは、神ご自身でした。そしてわたしたちは、神の御心(御言葉)を真心から祈る(身を捧げる)という行為についてくる、神の祝福を期待することが出来るのです。

あなたはイエスを通し、神に、この御言葉のようにわたしを祝福してくださいと祈ったことはありますか？ 神から与えられる最大の祝福とは、神からの贈り物の数々ではなく、神ご自身です。神はわたし達に祝福を与えるためにイエスを地上へ送られました。(ヨハネ福音書 14：6 参照) この最高の仲裁者であり祭司であるお方のもとに来る、すべての人に、神は『私は彼らを祝福する』と約束しておられます。(27 節)

これからこの祝福の祈りを、あなたの教会のために祈りますか？ これらの言葉はもともと個人に向けて語られたものではなく、神の民全体のために語られたものでした。同様に、わたしたちは今日、世界中の神の民のために、神の祝福を祈るべきであり、特に、あなた御自身が属しておられる地域教会のために祈るべきです。

これからこの祝福の祈りを、あなたのご家族のために祈りますか？ ただあなたが独り誰も聞いていないところで祈るだけでなく、彼らが聞いているところで、彼らのために祈りましょう。そして家庭の中心にイエス様が来てくださるようにならう。

Copyright © 2001 Donald S. Whitney

Permission granted to copy this material in its complete text only for not-for-profit use (sharing with a friend, church, school, Bible study, etc.), and including all copyright information. Other uses require written permission. This material may not be sold or included in publications intended for sale.